

東京のへー



学力テスト問題について意見をだしあった懇談会＝8日、足立区

「成績順に予算!? 逆じゃない」

足立区で学テ懇談会

「子どもたちが明るく過ごせ、楽しいと思える学校にしたい」。足立区教育懇談会と東京都教職員組合足立支部が8日、同区花畑センターで「考えよう! 足立区学力テスト問題 子ども真の学力とは何か」をテーマに懇談会を開きました。

七月から、地域で足立の教育問題を考えようと区内各地で開催しているもので、この日は、母親、

現職や退職した教職員、住民など二十余人が参加しました。

七月から、地域で足立の教育問題を考えようと区内各地で開催しているもので、この日は、母親、

た、平均点を上げるために、三人の児童の答案を抜き取ったり、誤った回答を指さして訂正させるなどの不正があったことが明らかになっていました。

都教組足立支部の橋本敏明書記長は、「最大の犠牲者は子どもたち」として、度重なるテストに「またやるの」と訴えたり、学校ごとの順位が公表されることで「どうせまたヒリ」など、子どもたちに大きな負担となり心を傷つけていることを指摘。「学力向上」を名目に、夏休みを二週間短縮したり夏休み中の補習授業や自習教室

などで夏休みを奪っている実態などを報告しました。また、不正問題の根本に、「学力」競争をおおってきた区教委の姿勢があることを批判しました。

参加者からは「署名の依頼で成績のいい学校に予算を増やすという区の方針を話すと『それは逆じゃないの』という返事が返ってきた」「学校選択制になって、地域が崩れ子どもを主役にした運動会ができなくなつた」「楽しい学校に変えるため、どこかで突破口をつくり出さないと」などの意見が出されました。